

# コンテナ栽培イチジクの養液施肥技術と冬季収穫技術の開発

## 現状の栽培では

地植え栽培では・・・  
生産不安定  
土壌病害の発生  
収穫期間は約半年  
収穫労力が集中する  
販売価格が頭打ち



## 発想 I コンテナ栽培を導入すれば？

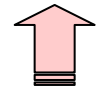
早期成園化が可能  
果実品質が均一化する  
生産が安定する  
省力化できる

## 発想 II 冬季に出荷できれば？

労力分散、規模拡大可能  
周年出荷による収益向上



技術の組み立て  
コンテナ栽培技術  
の確立



## コンテナ栽培技術の開発

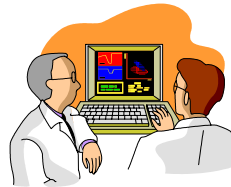
根域制限により早期に樹勢を安定させる  
土壌病害を回避する

現状のコンテナ栽培では・・・  
散水かけ流しかん水・表面施肥では、  
均一性に欠け、肥料流亡が多い  
栽培後4～5年で樹勢が低下する



改良手段（試験研究内容）  
かん水・施肥技術の確立  
好適水分・肥料条件の解明  
点滴かん水・養液施肥技術の開発  
好適培土の検討  
培土の組成・量、客土の調節技術の開発

## 研究機関



## 新しい作型の開発

冬季（1～4月）の収穫を可能にする

現状では・・・  
着果不良になる  
結果枝の伸びが悪い  
果実品質が低下する



解決手段（試験研究内容）  
光合成促進のための管理技術の確立  
せん定・摘心・枝管理方法  
地温・光等環境制御方法  
施肥・かん水方法